

# 浄土

monthly  
JODO

2022

October  
vol.88  
no.967

令和4年

通巻967号

10

【浄土アーカイブ】

「法然上人の経済思想」友松圓諦を語る

赤坂明翔

微風吹動

ぶつぶつ放談

浄土真宗本願寺派を知ろう 高願寺・宮本義宣  
カタツムリのリズムで 工藤量導



# 浄土

2022/10月号 目次

インド紀行⑳ ビハール州の多様な歴史 .....	佐藤良純	1
『浄土』アーカイブ 友松圓諦を語る .....	赤坂明翔	6
法然上人の言葉⑥ 阿波介の念仏も源空の念仏も同じ .....	阿満利磨	12
寺々刻々㉒ 元首相事件に見る既成仏教と新興宗 ...	鶴飼秀徳	16
ぶつぶつ放談 浄土真宗を知ろう .....	宮本義宣	20
林海庵・開教奮闘記 ご本尊探しに駆け回る .....	笠原泰淳	28
漫画「浄土宗のお祖師様」三祖良忠上人⑭ .....	ぐんじまん	33
あなたもお寺のCIO⑦ お盆参りを科学する .....	小路竜嗣	36
微風吹動 カタツムリのリズムで .....	工藤量導	40
江戸 日本の街道探訪 第18回 日光街道1 .....	森 清鑑	44
編集後記 .....		52
表2 古物漂流⑱ .....	三宅政吉	



表紙題字=中村康隆元浄土門主

表紙絵=清岸寺第四十四世 原口正弘

アートディレクション=近藤十四郎

3

ご本尊探しに  
駆け回る

# 開教奮闘記

林梅庵開山上人

笠原泰淳



かさはら たいじゅん

昭和三十三年東京生まれ。慶応大学経済学部卒。日本通運（株）に入社、八年勤務し浄土宗東京教区貞源寺の故藤木芳清師に師事。佛教大学に学び、浄土宗僧階取得。東京教区心光院に約十年勤務。平成十四年「林海庵」設立、翌年林海庵が浄土宗寺院に承認され住職となる。現在、浄土宗開教振興協会副理事長。

平成十三年。新寺建立のための仮拠点に転居した年だ。十四階建てマンションの五階、六階部分―内階段のついたメゾネットタイプの部屋で新しい浄土宗の寺が産声を上げた。

このマンションは都市再生機構（UR）、かつての住宅公団の賃貸物件だ。借りる側からすればある意味で安心だったが、契約段階で問題が生じた。居住専用として使うことが条件なのだ。考えてみれば当然のことだ。「ゆくゆくは寺として使うつもりです」と言えばその時点で「契約できません。どうぞお引き取り下さい」ということになる。私は黙っていることにした。将来は信徒さんが集まって下さるような形を目指すものの、実際にそうなるかどうか分からないではないか。当面は「居住専用」として使うことに嘘はない。契約はもちろん個人名だ。だがポストと表札には寺院名を入れた。寺院の名称は「林海庵（りんかいあん）」。寺院の場所も寺院名も、自分で決めるこ

とができる。否、決めなければ何も始まらない。既存のご寺院からすれば驚きだと思うが、それが開教寺院なのだ。（注・当時は宗務庁にも賃貸マンションの形態を例外的に認めて頂いたが、現在は一戸建てでないと開教をスタートできないと思う）

さて、その年の秋のこと。一本の電話が鳴った。「近くに住む者ですが、妻が病気で余命宣告を受けています。いざというときに葬儀をお願いできますか。実家の宗派は浄土宗です。」

私は慌てた。当時祀っていた阿弥陀さまは、像高一八センチの青銅製の鑄造仏だ。これはサラリーマンをしていた亡き父が、香港出張の土産に買ってきてくれたもの。まだ私は大学生だった。このお像をテーブルの上に置いてずっと手を合わせていたのである。他に仏具はなし。人さまと共に手を合わせられるような環境はまだまったく



マンションだったころの林海庵で開眼作法をする笠原住職

整っていないかった。

だが、もしこの話を受けられないようであれば、何のために開教を志したのか。

「分かりました。私どもでお受けしますので、どうぞご安心下さい。」

はたしてこのような環境にいらして下さる本尊さまはおられるだろうか。大慌てで阿弥陀さまのお像を探し始めた。「うちの寺に阿弥陀さまがもう一体あるから、そのお像でよかったですらどうぞ」と仰って下さるご寺院もあった。涙が出るほどありがたかった。だがそこまでは甘えられない——当時の私はそう思っていた。古美術商のお店を片っ端から調べ、足を運ぶ。中には驚くような阿弥陀さまもあった。営業の方がいうには、「鎌倉時代のもの。ある（他宗の）寺院が寺宝を売りに出した」とのこと。素晴らしいお像だったが、とても高価で手が出ない。結局、知り合いのご寺院が紹介してくれた仏具屋さんのお世話になった。

「何、新しい寺を作るの？ よし、協力する。この阿弥陀さん、どういう所に祀るの。えっ何、マンシヨンだつて？」

というわけで、須弥壇（と言っても木箱だが）の据付工事もしてくれることになった。

仏間（予定の部屋）の北側に大きなガラス窓がある。窓を外してその外側に窓枠サイズの大きな木箱（あるいは木の小部屋）を設置し、そこに阿弥陀さまをお祀りしてはどうか。それが仏具屋さんアイデアであった。阿弥陀さまを窓枠の外にお祀りすれば、部屋のスペースがその分広がる。少しでも仏間を広く使おうという提案だ。

「いいですね。そうしましょう。」

ということにはなったものの、工事当日のことは今でも記憶に残る。何せ賃貸契約上許されない改修工事だ。幸い部屋の北側には鬱蒼とした森が広がり、この木箱の位置は外から見えない死角にあたる。工事が終わってしまえば大丈夫であろう。

だが大型のトラックに仏具や工事資材を積んで来ているので、もし管理会社に「何をやっているのですか」と見咎められたら万事休すである。車止めを外し、トラックは見えない場所に隠した。ハラハラしながらも長い一日が終わり、工事は無事完了した。

こうして一歩一歩、寺としての体裁を整えていった。先に述べた方の奥さまは間もなく亡くなられ、葬儀を勤めさせて頂いた。後日、整ったばかりの仏間で満中陰法要を勤める。林海庵最初の檀信徒である。やがて一軒、二軒とご縁が広がり始めた。

翌年の春、お寺のホームページを立ち上げることになった。

「ここに浄土宗のお寺ができました。」

まずはこのことを地域の方々に知って頂く必要がある。新聞に折り込み広告を入れたり、タウン

ページに載せたり、タウン紙に広告を載せたり：そのようなことも試みたが、やはり最も効果があるのがインターネットであった。

開教当初、ある友人にも言われた。

「これからはインターネットの時代。若い人は電帳で調べものをするにはもうないだろう。ホームページを作った方が良い。」

そこで開教活動を始めた翌年、平成十四年にホームページを立ち上げた。幸いなことに、私の妻はシステム・エンジニアとして働いてきた経歴があり、ホームページも制作したことがある。喜んで協力してくれた。

初めのうちは、「多摩市 浄土宗」でネット検索すれば林海庵の連絡先にたどり着けることを目標とした。ところが当時は法務もほとんどなくて十分な時間があつたので、次第にコンテンツを増やしていった。特に力を入れたのはQ&Aのページである。二十年前の話である。現在のようにY

a h o o ! 知恵袋もなかったし、仏事についての質問に答えるサイトもほとんどなかった頃だ。ふだん皆さんからよく受ける質問、例えば「浄土宗と浄土真宗はどう違うのですか」「修行は厳しいですか」「お坊さんは食事の制限はあるの」「お盆の期間は」「仏壇を置く場所は」などに答えを書いていった。またホームページを通じてメール相談を受けることにした。

あるとき、神奈川県在住の若い方からメールで質問が来た。

「一般の人でも参加できる念仏会をやっているお寺を知りませんか。」

その方はふだんは坐禅を実践しているとのこと。ぜひお念仏の世界を体験したい、という話だった。

(つづく)